

【執筆者一覧】

加藤幸弘（放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2013 年度修了生）

佐藤 新（放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2013 年度修了生）

市川貞男（放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2010 年度修了生）

小川正人（放送大学大学院文化科学研究科人間発達科学プログラム教授）

《編集後記》

本号は、放送大学大学院小川研究室に所属する 2013 年度修士課程修了生 2 名と 2010 年度修了生 1 名の論文、そして、私の民主党政権時代における学級編制・教職員定数改善に関する文部科学省での有識者ヒヤリングにおける意見陳述と 177 回国会衆議院文部科学委員会での参考人意見陳述を資料として掲載しています。両方とも 5 年ほど前のものですが、本号への修了生からの投稿原稿が 3 本と少なかったこともあり、資料的意味も込めて掲載させて頂きました。

小川研究室の現状を報告しますと、2014 年度に修士課程を 9 名の院生が修了、そして、2015 年 4 月に修士課程 2 年生になれる院生が 9 名、修士 3 年生以上が 3 名、そして、新たに 2015 年 4 月に修士課程に 7 名が入学してきます。修士課程に在籍する現役大学院生が総数で 19 名になります。また、2014 年 10 月にスタートした博士課程にも、小川研究室第 1 号の博士課程院生として 2012 年度に本学修士課程を修了した青井拓司さんが入学します。博士課程院生の誕生で小川研究室の研究活動もより活性化していくと考えています。

前号にも書きましたが、大学院生の数が多いため研究指導は大変ですが、その分、多様な研究テーマがあり論文指導会は私にとっても全国各地の地域や学校等に関する新しい情報を知り得る貴重な機会になっています。また、スタートした博士課程では、院生の青井さんには東京大学をはじめ他大学の院生、研究者等との研究ネットワークを創りながら最新の研究に取り組んでもらえるよう努力していきたいと考えています。

私事ですが、第 8 期中教審（2015 年 2 月～2017 年 1 月）でも副会長や初等中等教育分科会長などを務めることになりました。また、東京都足立区教育委員の活動も継続するなど、学外の社会的活動も多く引きうけています。研究時間を確保するのが難しく苦慮していますが、ただ、学校や教育行政の現場に緊張感を持って向き合う機会は、自分の研究の問いかけや吟味でもあります。忙しさを口実にせず、そうした社会的活動と研究を両立させる緊張した生活を続けられまで継続したいと考えています。

今後とも、研究室へのご指導を宜しくお願い致します。

（2015 年 3 月 小川正人）

放送大学大学院文化科学研究科 教育行政研究 第5号

2015年3月■日 印刷

2015年3月■日 発行

編集兼発行者 放送大学大学院文化科学研究科
人間発達科学プログラム
教育政策・教育行政研究室
小川 正 人

印 刷 株 式 会 社 創 志 企 画
東京都新宿区山吹町81番地(〒162-0801)
